特集

第1回「てっぺんフォーラム」

学生が創る「みんなのためのみんなの賞」

「教育力日本一」を目指す文京学院。7月には、「初年次教育」の一環として「てっぺんフォーラム」を、ふじみ野・本郷両キャンパスで行いました。成功や失敗体験を積み重ねたことで「気づく」ことは個々様々。心の中のスイッチをオンにして、自分なりの「てっぺん」を目指した学生たちの努力や成長を称え、後輩たちに「気づき」の大切さを伝えることを目的としています。審査を経て「スイッチ・オン賞」「てっぺん賞」に選ばれたのは11組。

ふじみ野キャンパスでは、会場で1年生ほか関係者による副賞の投票があり、各賞に「活力」「期待」「発見」の副賞が贈られました。投票は、それぞれ以下の基準です。「パワーをもらったため、自分が取り組んでいる部活や勉強を極めたいと思った」「世界観が広まったことで、さらに大学生活への期待が高まった」「『気づき』を得られるような影響を受けたため、見習いたいと思った」。本郷キャンパスでも、会場で各学科の1年生はじめ関係者による投票が行われ、外国語学部4年の前田進さんが「最高得票数」を獲得しました。

文京学院創立85周年を機に文京学院の学生誰でもが「てっぺん」を目指せるように、こんな素敵な冊子ができました。ページを開くと、次のような珠玉の言葉が全ページに散りばめられています。

「多くの人は、歩み続ける過程で、何度も失敗し、後悔しています。

しかし、その経験は、自分ならではの“てっぺん”を目指す、彼らの人生に生きているのです。」

皆さんの「文京ライフの友」にしてほしい1冊です。

7月9日 ふじみ野キャンパス
人間学部・保健医療技術学部

てっぺんフォーラム学生実行委員会副委員長の菅優貴（すがゆうき）さん（児童発達学科2年）の司会で、「てっぺんフォーラム」がスタート！

てっぺん賞

副賞「期待」「地域連携センターBICSリーダー会」斉藤千尋さん（人間福祉学科3年）他10人

BICSリーダー会のメンバー

BICS地域連携センターは、ボランティア講座の開設やボランティア情報の提供を中心に、ボランティアによる福祉サービスを必要としている地域の方と、ボランティア活動に参加したい学生や、地域の方々とをつなぐ役割を果たすことを目指しています。

人間学部教員からなる運営委員会、地域住民による地域委員、学生による学生委員で組織し、地域の組織と連携しながら、全11の教育プログラムを展開。

壇上には、斉藤さん始め8人のリーダーが代表で並び、それぞれの地域からどのようなニーズがあり、それらに対して何を企画し、どのような形で実践しているのかを具体的に話しました。

副賞「発見」「環境教育研究センター」小田真也さん（共生社会学科4年）他33人

環境教育研究センターのメンバー

東日本大震災で被災した子どもたちにランドセルを贈りたい一心で「ランドセル大作戦」を行った学生たち。ふじみ野市教育委員会・総合政策室と連携し、市内13の小学校の校長先生の協力を得て、1024個のランドセルを回収。一般学生にメッセージカードの協力を仰ぎ、教職員からの文房具と一緒にランドセルに詰めました。

地域の運送会社や活動家の方々の協力を得て、メンバーはいざ宮城へ！ 仙台では、倉庫からの荷だしを全員で手伝い、空いた場所にランドセルを置かせていただき、900個は福島県相馬市へ。あとの124個は宮城県気仙沼市へ届けました。2班に分かれ、あとのグループは支援物資を乗せて避難所巡りをしました。壇上では、小田さんがそのプロセスをまとめたビデオを映しながら解説。メンバーの「人のために役立ちながら成長したい」という熱い心が伝わりました。

副賞「活力」柳井渉さん、宮部邦彦さん、菅谷健太郎さん（児童発達学科3年）

左から柳井さん、菅谷さん、宮部さん

柳井さんは、本学のオープンキャンパス実行委員会だけではなく、中国での植林も体験した行動派。そして、SNPの会計も務めています。SNPとは、宮部さん、菅谷さんが創立した「ホラー同好会」のこと。

菅谷さんは文京学院に入学後、周囲に自分と趣味の合う友人に恵まれず、つい大学を休み勝ちに。ある日、宮部さんがホラー好きと分かり意気投合し、「スイッチ・オン」！ 加須屋裕子教授に同好会立ち上げを相談したところ、「やってみれば」と背中を押してくださったため勇気100倍。

その後、菅谷さんは人が変わったように大学へ来るようになりました。宮部さんは、それまで人に接することが苦手でしたが、メンバーを40人も勧誘するほど積極的に人に働きかけました。その2人を、柳井さんは会計としてサポート。3人は「行動するのは大変。でも、行動しなければ何も始まらない」と後輩たちにメッセージを送りました。

スイッチ・オン賞

副賞「活力」ダンスサークル「Witch rino bit」實田（さねだ）正也さん（人間福祉学科3年）他12人

實田さん

高校時代にダンスに興味を持ちながら、一歩前へ踏み出せなかった實田さん。卒業式に担任から「大学は、自分から行動しないと何も楽しいことはないぞ」とアドバイスがありました。

文京学院に入学して「これが最後の学生生活だ」と感じ、勇気を振り絞ってダンスサークル「Witch rino bit」の先輩に声をかけました。それが「スイッチ・オン」のきっかけで、實田さんのダンス・ライフがスタート！「高校時代、人の顔を見て話すこともできなかった」という實田さん。気さくで陽気な仲間と、ひとつのパフォーマンスに取り組む面白さにのめり込み、ダンスを通じて自己表現をすることで、心身を開放できるようになりました。ダンスは個性が出るので、より仲間を知ることができ、人間関係が広がりました。

1年生には、「最後の学生生活で、やりたいことがあったら、勇気を持って臨んで欲しい」と實田さん。その思いを受けて、Witch rino bit のメンバーが舞台で心躍るダンスを披露しました。勿論、實田さんの「ダンスが好き！ この仲間が好き！」という気持ちが溢れる姿もその中にありました。

パワフルなダンスを披露するメンバー

副賞「発見」安達郁也さん（理学療法学科3年）

安達さん

中学時代に大腿部骨折により、1カ月間入院した安達さん。松葉杖生活を3、4カ月体験し、しみじみと「歩けることの素晴しさ」を感じました。野球や剣道などのスポーツをしていましたが、歩けない経験をしたことで、理学療法士の道を選びました。

理学療法では歩く姿を後ろから見ると、何が悪いのかが判断できるそうです。文京学院に入学後、歩き方を先輩に見てもらいアドバイスを受け、実技指導を受けて歩きやすくなる体験をしました。「やはり歩行はすごい！」と興味を持ち「スイッチ・オン」！

「勉強は単にやっているだけでは身につかない。『なぜこれをやっているのか、学ぶのか』を理解すれば興味を持ち、やらされている勉強から『やる勉強』に変わる。人間は、興味があれば『もっと知りたい』と思って学ぶ。まずは、『自分は何に興味があるのか』を知ってほしい」と後輩たちに望んでいます。

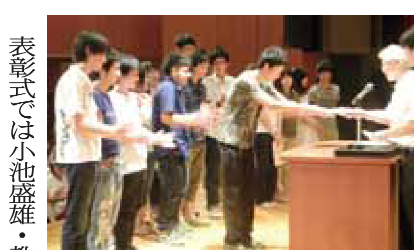
副賞「期待」大谷洋平さん（人間福祉学科3年）

大谷さん

2年次に授業の中で、自分でパペット（大きめの指人形）を製作し、ストーリーを考案。さらに1年生の前で演じるという体験をした大谷さん。自身が楽しんで発表をした際、児童養護施設などから見学にいらした職員さんが、大谷さんの演技を大変褒めてくださり、とてもうれしかったそうです。それがパペットに夢中になる「スイッチ・オン」の瞬間でした。

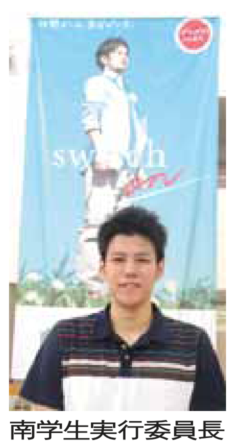
製作したパペットを実習先の幼稚園に持参すると、園児は興味を持って反応してくれるので、実習にも力が入ります。大谷さんの夢は「保育士になる」こと。その夢を実現するためにも、パペットは欠かせないツールですから、その世界をこれからも究めていきます。

1年生には「興味を持ったことがあったら、チャンスを逃さず何にでも挑戦してほしい」とアドバイスしました。



小池教職員実行委員長より表彰される受賞者一同

表彰式では小池盛雄・教職員実行委員長／副学長から賞状と副賞を受け取り、受賞者一同の笑顔が見られました。ふじみ野キャンパスてっぺんフォーラム学生実行委員長の南遊樹（ゆうき）さん（人間福祉学科3年）は、会心の笑顔で次のように話しました。



南学生実行委員長

「1回目の今年は、皆さんに応募を募ることに力を入れました。内容の濃い素晴しい発表だったと思います。僕が実習などの時、副委員長の菅さんや志場さん始めメンバーに、安心して仕事を任せることができました。また、教職員の方々のサポートがあったからこそ、難しい部分もクリアできました。来年は代が変わっても必ず『てっぺんフォーラム』に関わります。このフォーラムにより、皆さんが今向き合っていることに、さらに一生懸命になれるように期待します」

ふじみ野キャンパスのキャラクター「てっぺんギン」

ふじみ野キャンパス「てっぺんフォーラム」のキャラクターは「てっぺんギン」です。以下、今回のフォーラムを陰から支えたメンバーです（敬称略）。

学生委員

南遊樹（学生実行委員長／人間福祉学科3年）田口栄美（同3年）長瀬智佳子（共生社会学科3年）砂岡明香（同3年）大沼隆司（同3年）木村仁美（同3年）菅優貴（副委員長／児童発達学科2年）石橋祥子（同2年）志場宏美（副委員長／同2年）柳田芽来（同2年）鈴木梨花（同2年）山本えりか（同2年）飯田開（理学療法学科3年）大庭紗季（同3年）浜田静（作業療法学科3年）松本尚子（同3年）大森駿哉（心理学科4年）久住大（同4年）

教員委員

小池盛雄（教職員実行委員長／副学長・保健医療技術学部教授）青木通（人間学部教授）和田祐一（保健医療技術学部助手）

職員委員

森村幸夫（キャンパスディレクター）椎名昇（学生支援センター長）舟木玲子（キャリアセンター長）塚越明子（キャリアセンター）村上豊（教務グループ〈保健医療技術学部〉）角田千春（教務グループ〈人間学部〉）内山円香（情報教育研究センター）片岡伸介（同）若林祐太（学生支援グループ）

なお、資料提供は菅副委員長、片岡さん、取材協力は若林さん、「スイッチ・オン賞」個人以外の写真提供はてっぺんフォーラム学生実行委員会です。

7月16日 本郷キャンパス
外国語学部・短期大学・経営学部

司会はてっぺんフォーラム学生実行委員会の湯浅まなみさん（短期大学2年）と鹿野智里さん（同2年）が担当しました。

てっぺん賞

市川直央（なおう）さん（経営学部4年）

市川さん

市川さんは、インターネット広告最大手の株式会社オプトに内定しましたが、本学で学んだ一つひとつを積み重ねた結果だと言います。

ゼミ長、軟式野球部の部長を始め、TAFも体験。そこで制作した作品が、制作会社の方に「面白い」と認められ、やり取りするうちに、本学と関わりのある「ニュービジネス協議会」に携わる方であることを知りました。

自ら手伝いを申し出た市川さんは、同協議会主催イベントフォーラムのオープニングで使うアニメーションの営業を担当。積極的に自分の道を切り開いてきました。

市川さんからは次のメッセージがありました。「色々な方々のお陰で、今日、この場所に立てたと感じています。自分の経験が、少しでも1年生の皆さんの心に響けばいいなと思い、『夢への礎』をテーマに話しました。皆さんの『スイッチ・オン』のきっかけになるとうれしいです」

最高得票数の前田進さん（外国語学部4年）

前田さん

英語落語研究会に所属し、1年間のアメリカ留学を終えて帰国した前田さん。アメリカでは、山ほどの読書・レポート・ディスカッションがメインの授業を受け、クラスメイトたちから大きな刺激を受けました。

そのような経験をできたのは、本学で学ぶにあたり、「生活のリズムを作る」ことを心がけたからです。そうして出来た時間を使い、前田さんは英語の勉強に没頭しました。その結果、100点台であったTOEICスコアが600点台に飛躍！ でも、勉強だけではなく、ランニング、読書、人との会話が生活の一部である前田さんは、環境が変わっても習慣を継続させる強い意志を持っています。留学中にもランニングをこなし、知らないうちに高速道路を走っていたという武勇伝（？）も伝説となって残っています。

「今日、ここに来て人の話を聴き、何かを得ようとしている皆さんこそが『てっぺん大賞』です！ 少しでも皆さんのヒントになることがあればうれしいです」と前田さん。

スイッチ・オン賞

レダ花子さん（短期大学2年）細田恵里奈さん（同）

レダさん（左）と細田さん

本学が誇る「チャット・ラウンジ」。ここでは外国人のチャット・パートナーといつでも気軽に会話を楽しめ、留学をすることなく英会話力を磨ける理想的な場所です。レダさんと細田さんは、「チャット・ラウンジの住人2人」と言われるほど通い詰めて、英語に親しんでいます。2人は、英語と日本語を駆使して、「Chat Lounge」をテーマに、その長所を話しました。

2人から1年生に、次のメッセージがありました。「私はスピーチが苦手でしたが、お聞きいただいたようにできるようになりました。皆さんもチャット・ラウンジを有効利用して、ぜひ来年『てっぺんフォーラム』にチャレンジしてください」（レダ）、「今日は私たちのプレゼンをお聞きくださり、大変ありがとうございました。とても良い経験をさせていただきました。1年生の皆さんも目標に向って、大学生活を楽しんでください」（細田）

「TAF・MD班」長田麻衣さん（経営学部3年）根本恵美さん（同）桶明紀菜（おけあきな）さん（同）

毎年、東京で開催される世界最大規模の「TAF（東京国際アニメフェア）」。そこでは、文京学院の学生たちが学部を超えて協力し合い、ブースを設けています。英語と中国語を駆使して自らの作品をPRし、ビジネスデーには「最も来場者を引きつけるブース」として大繁盛です。

今回は、東日本大震災の影響で3月末に予定されていた同フェアが中止になり、急遽、会場を本郷キャンパスに移して、仁愛ホールでは1年生を対象に、B's ダイニングでは企業を対象に、プレゼンテーションをやり遂げました。そこに至るまでには教職員始め、企業の方々などの大きなご協力がありました。それらに心から感謝をし、MD（マーチャンダイジング・販売）班の3人が、「TAFでスイッチ・オン～0からのスタート～」をテーマに、1年生の前でこれまでの歩みをプレゼンしました。

1年生に対して、それぞれ次のメッセージがありました。「てっぺんフォーラムに出られるだけでも素晴しいことなのに、このような表彰状までいただき大変うれしいです」（長田）、「大学生には無限の可能性がありますから頑張ってください」（根本）、「何事にも挑戦することが大切であることに気づきました。皆さんもぜひ『気づき』を感じてください」（桶）

TAF MD 班　左から長田さん、根本さん、桶さん

木村朋美さん（外国語学部4年）

木村さん

木村さんは「大学生のあなたにできること」をテーマに自身の「スイッチ・オン」の原点であるアメリカ・ミネソタ州への長期交換留学体験について話しました。もうひとつ自身を変えたきっかけとなったのは「インドでのボランティア活動」です。国際貢献コースに在籍し、発展途上国の貧困などを学んだ木村さんは、自分の目で実際のインドを見たいと思い、ひとりで10日間のボランティアツアーに参加しました。

マザーテレサハウスでは洗濯を手伝い、時間をみては子どもたちに接しましたが、どんなに貧しい暮らしの中にあっても、その日が輝いていることに驚きました。帰国後「インドでの物質的な貧しさと、日本の精神的な貧しさ」を感じ、「貧しさとは何か？ 幸せとは何か？」を考えさせられました。「話したいことの半分も話せなかったのが心残り。1年生は時間があるので、夢や目標に向けてじっくりと向き合ってください」と、木村さんからのアドバイス。

森宮教員実行委員長から表彰される受賞者

清田学生実行委員長

表彰式では、受賞者一同、森宮教員実行委員長から賞状を手渡され、誇らしげな笑顔を見せました。

本郷キャンパスてっぺんフォーラム学生実行委員長の清田里穂（りほ）（外国語学部3年）さんは「発表者の皆さんの素晴しいプレゼンに、私たち実行委員会メンバーも大きな刺激を受けました。このフォーラムを開催するに当たり、教職員の方々には素晴しいサポートをしていただきました。また、妥協したり諦めることなく、常に一生懸命働いてくださった委員会メンバーにも心から感謝いたします。菅野副委員長はじめ部会長、全委員の皆さんから影響を受け、成長させていただいたのは私です。次回のフォーラムがより良いものになりますよう、そして、より多くの学生の笑顔が、文京学院で見られますよう期待いたします」

本郷キャンパスのキャラクター「てんてん」と「ぺんぺん」

本郷キャンパス「てっぺんフォーラム」のキャラクターに名前がつきました。「てんてん」と「ぺんぺん」どうぞよろしく。以下、てっぺんフォーラムを支えたメンバーです（敬称略）。

学生委員

清田里穂（学生実行委員長／外国語学部3年）後藤香那（同3年）武井香保里（同3年）渡邉隼（同3年）湯浅まなみ（短期大学2年）鹿野智里（同2年）林若菜（同2年）梅澤佑美（同2年）遠藤愛美（同2年）比嘉ちひろ（同2年）宮原沙季（同2年）菅野竜矢（副委員長／経営学部3年）吉田龍丞（同3年）親見智久（同3年）鹿島捺未（同2年）吉田咲紀（同2年）西山千晶（同2年）髙木哲平（同2年）関勇作（同2年）三宅洋行（同2年）塚本廉（同1年）片山綾香（保健医療技術学部臨床検査学科2年）結城菜摘（同2年）

教員委員

森宮勝子（教員実行委員長／副学長・経営学部教授）新田都志子（経営学部教授）与那覇信恵（外国語学部助教）阿佐宏一郎（短期大学助教）関貴行（保健医療技術学部助教）

職員委員

森岡俊也（キャンパスディレクター補佐）寺園孝男（学生支援センター長）須永清美（教務グループ〈外国学部・短大〉）柴義人（教務グループ〈経営学部〉）瀧本貴子（学生支援グループ）紺野多恵（教務グループ〈保健医療技術学部〉）畠中良（入試グループ）根岸朋子（情報教育研究センター）成海禎美（コンテンツ多言語知財化センター）なお、資料提供は司会の湯浅さん、取材協力は須永さんと瀧本さんです。